



Collaboration City 21

社団法人 三原青年会議所新聞



2001年 5月20日

発行 / (社)三原青年会議所
編集 / 広報委員会
三原市皆実4丁目8番1号
(三原商工会議所内)
TEL (0848) 63-3515
FAX (0848) 62-1141
インターネットアドレス
<http://www.tako.ne.jp/~mjc/>
Eメールアドレス mjc@tako.ne.jp

2001年三原JCスローガン

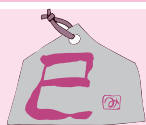
言行一致

今、JCメンバーとして...

今月号の記事

- 1面 共育が動く！
- 2面 「コミュニティ・スクール」の確立を目指して
- 3面 第3回「広域まちづくり研究会」レポート / 4月例会
- 4面 わんぱく相撲三原場所 / エコショップ / ミスやっさ

みたか
きいたか

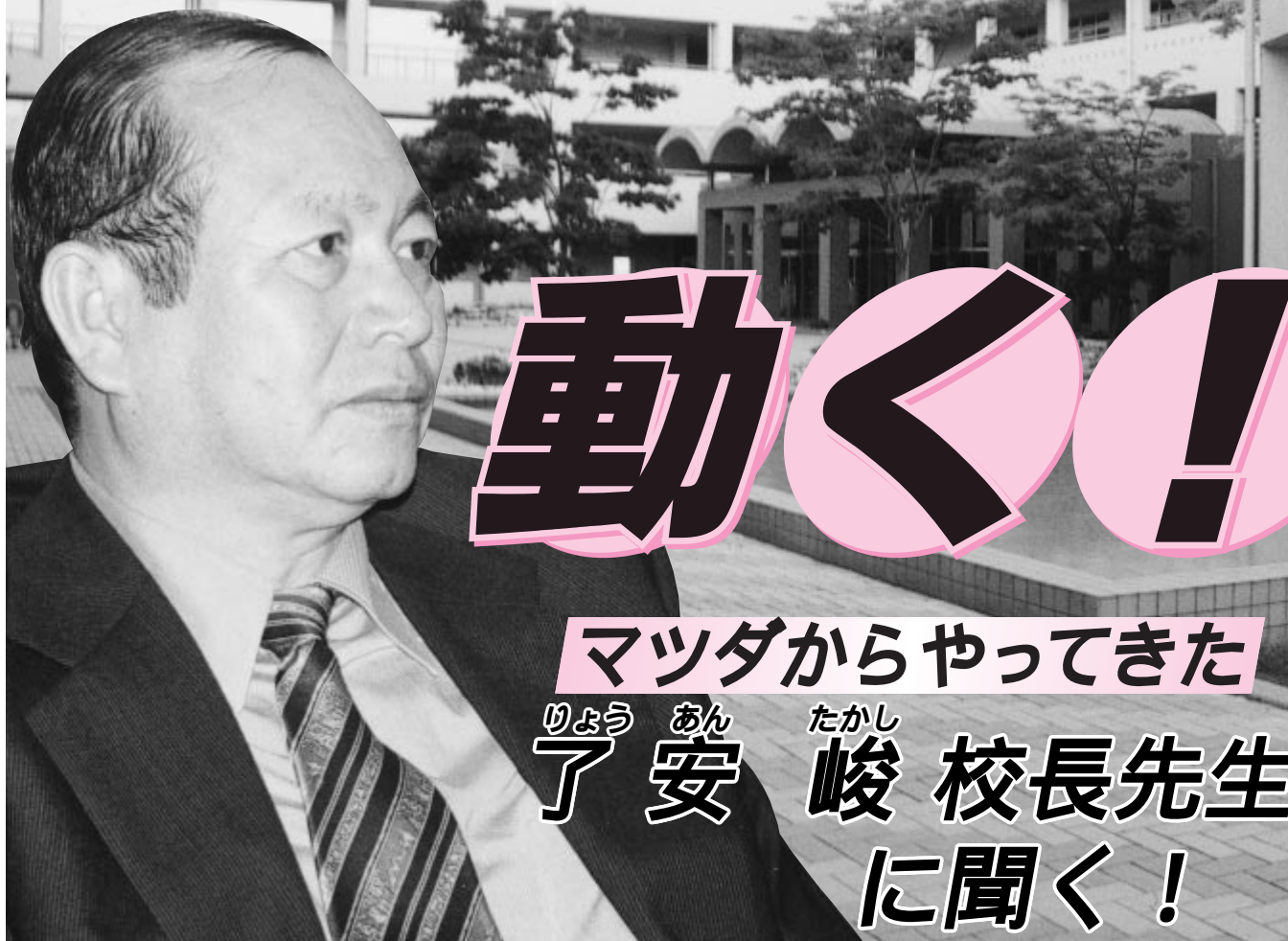


小泉新政権が誕生した。各種世論調査で高支持率を記録した小泉純一郎首相、「改革断行」「脱派閥政治」を掲げる。これまでと一風変わった首相の登場に、国民全体の期待の高まりが高支持率の裏付けとなっているのだらう。

党内最大派閥でありながら惨敗した橋本氏。三役ポストをも逃すという異例の事態に追いやられた。「派閥の順送り人事はしない」という小泉首相の主張が如実に現れた結果であった。小泉内閣、一方では「タカ派」的要素が強いといわれ、また「おだぶつ発言」で物議をかもした田中氏が入閣するなど、「失言大警戒内閣」といわれているが、出来レースでの首相選出でなかっただけに期待感が高い。それにしても今回の総裁選の結果には驚いた。最も驚いているのは小泉首相自身かもしれない。当の本人ですら総裁選出馬の際、勝てる確信などなかったであろう。小泉首相には予備選での票の上積みをするという戦法しかなかったはずだ。

結果、予備選にもとづく地方票141票のうち、約9割の123票を獲得した。まさに、自民党の地方党员の間でも地殻変動が起きたと思わせる出来事だったに違いない。今年は選挙の当たり年である。夏には参議院選挙、秋には本郷町長選挙、三原市長選挙がある。これらの選挙でも総裁選と同様、今回の選挙の争点は何であるかを明確にし、候補者同士が政策論争を戦わせた上で我々が判断できれば、我々の理想とする首長の誕生となるであろう。国民の関心が日本のトップを動かす結果となったことを改めて実感し、わがまち「みはら」においても世論の高まりを期待したい。

“共育”が



マツダからやってきた

了安 峻 校長先生
に聞く！

20世紀から21世紀へ持ち越された大きな課題「教育」。子どもたちに何をどう教えていけばいいのか、学校・家庭・地域と社会全体の命題として「教育改革」が真剣に問われています。「教える教育」から「学ぶ教育」へ、そして基本理念として「生きる力」の育成を掲げた新学習指導要綱も2002年度から実施されます。もっと人間的な学習の場としての「新しい学校」の創造が緊急の課題となった今、まさに教育の変革期にさしかかっているといえるのではないのでしょうか。

そこで、今春広島県としては初めて民間から校長に就任された黒瀬町立黒瀬中学校、了安峻（りょうあんたかし）先生に、今の教育と学校について、その課題と転換の必要性を語っていただきました。

新たな世界への チャレンジ！

今、私は54歳です。マツダで仕事をしていれば後6年で定年を迎えられます。マツダでは商品の企画開発をしていましたが、全身全霊を傾け仕事に取り組んでまいりました。この30年間、民間で培ってきたものを学校教育という場で活かされないかと考え、残りの人生を校長という立場にチャレンジすることに決めました。

学校のマネジメント が問われている！

4月2日からこの学校に来て1ヶ月が過ぎました。今思うことは、「学校の中では先生は生徒のために様々な努力をして一生懸命に頑張っているのに、学校の外から見れば意外と評価されていない」ということを感じました。これは、学校と保護者とのコミュニケーション不足ということが大きな原因で、その結果、お互いの意見のすれ違いが見られるのです。この溝を埋めるのが私の役割ではないかと思えます。

学校というのは、生徒と先生だけの特別な「閉ざされた場」ではなく、家庭や地域の人たちを受け入れたものでなくてはなりません。まちに開かれた学校として「おらがまちの学校」になり、様々な人が交流できる場になっていかなければならないと思います。そういった総合的なマネジメントが、今学校に求められているんだと強く感じました。

まちに出ようよ、 学校！

私は、地域に開かれた学校を目指して「学校がまちに出る」ことや、「地域の人たちに学校へ来てもらう」という2つのプランを考えていかなければなりません。

「学校がまちに出る」取り組みとして、黒瀬中学校が4年間継続して行っている2年生の職場体験学習。生徒が地域の様々な職場に行き、その体験をすることによって、地域の人たちが子どもたちの先生になって指導しながら交流できる場を作っています。また、学校側も地域の人たちと、この事業を通して素晴らしい交流がはかれています。

と思うのです。そして、「地域の人たちに学校へ来てもらう」取り組みとしては、学校の文化祭に地域の人たちの合唱コンクールを開催したり、子どもからお年寄りまで様々な人たちとの交流を文化祭の時にやること、また今年は、学校のパソコン教室を地域に開放して、生徒が先生になって地域の人たちとの交流をはかっていこうと考えています。先生は「学級だより」を出して、保護者とのコミュニケーションをはかっていますが、私も自ら「学校だより」を出して、学校の情報や子どもたちの情報を広く家庭や地域に発信していきたいと思っています。

企業も学校も みんなのもの！

会社は、株主や社長、社員だけのものではなく、お客様のものでもあるのです。それと同じように、学校も先生や生徒だけのものではなく、地域みんなのもの。そのためには地域とのコミュニケーションを大切に、学校の「情報公開」「説明責任」という役割を果たしていく姿勢が必要だと思えます。
(2面に続く)

本紙『やっさもっさ』は、1月から11月まで毎月1回発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。

やっさもっさは資源保護のため再生紙を利用しています。